

特集『さらに』新しい生活様式を

本町のごみ排出量は県内でワースト5位。ごみの処理にかかる経費は10年前と比較すると約3千万円増加しています。年々増え続けるごみの排出量。本当にどうしようもないのでしょうか？

福島県のごみ排出量は全国ワースト2位

6月に環境省が発表した令和元年度ごみ排出量等の調査結果によると、福島県民1人1日当たりのごみ排出量は1035kgでした。これは全国平均より117kg多く、都道府県別では全国ワースト2位、リサイクル率も2番目に低いという結果となりました。

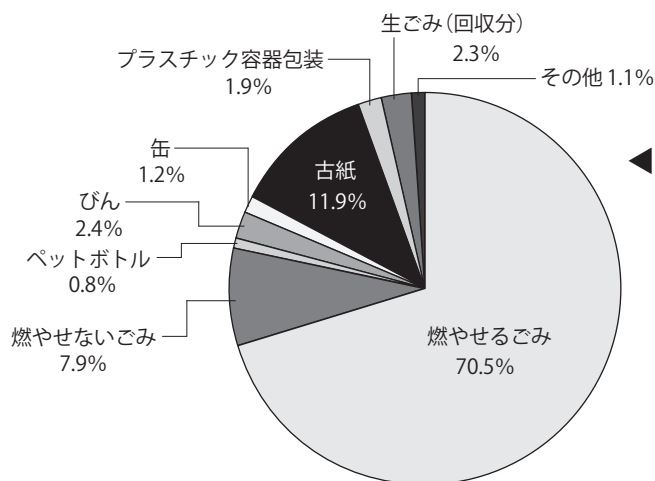
県内ワースト5位 本町のごみ排出量

本町では、平成7年にうつくしいまちづくり宣言をして、町民の皆さんとともにごみの分別収集や減量化に取り組んできました。しかしながら、令和元年度の本町の1人1日当たりのごみ排出量は1230kgで、県平均を195kg上回っており、県

内では5番目に多いという結果になっています。市町村別のリサイクル率では15・0%で12番目、県内においては進んでいるほうであると言えますが、全国平均の19・6%には遠く及ばない数値となっています。

なぜ、本町のごみ排出量が多いのか

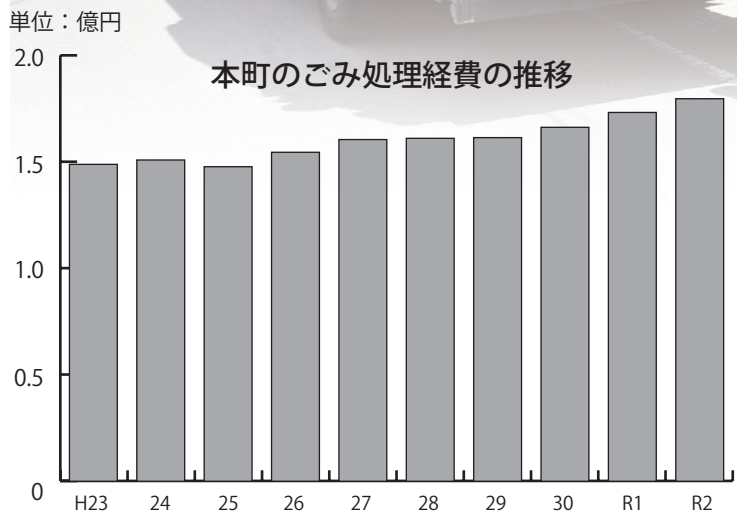
町で収集しているごみのほとんどは会津若松市にある会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センター（以下、環境センター）に搬入され、処理されています。環境センターには、広域組合を組織する会津地方の10市町村からごみが搬入されています。このうち、「燃やせるごみ」として搬入されたごみの組成調査を行った結果、約38%は紙やプラスチック製容器包装などリサイクル可能なごみであることが判明しました。



右のグラフで示したとおり、本町の家庭系ごみの約7割は燃やせるごみです。分別が徹底されていないため、本来資源ごみとしてリサイクルされるべきごみが燃やせるごみとして出されていることが本町のごみ排出量増加の一因と考えられます。

ごみの処理にかかる経費は増加傾向

本町におけるごみ処理経費の推移は左のグラフのとおりです。収集運搬や焼却など、令和2年度のごみ処理にかかった費用は合計約1億8千万円で、町民1人当たりすると1年間に約1万4千円の費用がかかっていることとなります。ごみ処理にかかる経費は増加傾向にあり、平成23年度よりも約3千万円増加しています。これらの費用は



もう一度ごみリサイクルカレンダーの確認を

平成23年度における本町の資源ごみ回収量は約1205tでしたが、令和2年度は約945tで21・5%減少しています。ごみの排出量を減らすためには、私たち一人一人の心がけが大切です。ご家庭にお配りしている「ごみリサイクルカレンダー」をもう一度確認していただき、ごみの出し方・分別にご協力をお願いします。

ごみが増えることで生じる影響

▼莫大な費用がかかる
ごみの処理には費用がかかります。皆さんからの税金がごみ処理経費に使われます。

▼エネルギーを消費する
焼却施設などを動かすための電気や収集運搬車の燃料など、多くのエネルギーが使われます。

▼環境負荷がかかる
ごみ焼却に伴って発生する温室効果ガス(CO2など)の増

加により、気温上昇(地球温暖化)につながり、環境に負荷がかかります。また、ごみを適正に処理しなければ大気汚染や土壌汚染などが発生します。

ごみの排出量を減らすためには

- 生ごみは水切りをして出す、コンポストを利用する
- 食べ残しをしない
- 紙やプラスチック製容器包装などのリサイクル可能な資源ごみはきちんと分別し、指定された日に出す↓混ぜればごみ、分ければ資源
- 地区の集団資源回収を活用する、トレー類は店舗回収などを利用する

「コロナ禍で家にいる時間が増えた」という人の話をよく聞く一方、巣ごもり需要などにより家庭のごみは増える可能性もあります。空いた時間の一部を分別などのリサイクルに使う、そんな『さらに』新しい生活様式』に取り組んでみるのも良いかもしれません。

▼問い合わせ先
町民生活課 環境係
☎(62) 2114

令和元年度福島縣市町村別1人1日当たりのごみ排出量(排出量の多い5市町村のみ掲載)

	市町村	総人口 (人)	ごみ総排出量 (生活系ごみと事業系 ごみの合計) (t)	1人1日当たりの排出量 (生活系ごみと事業系 ごみの合計) (kg)	リサイクル率 (%)
1	磐梯町	3,464	1,728	1,363	24.3
2	北塩原村	2,720	1,295	1,301	7.9
3	伊達市	59,441	28,101	1,292	9.8
4	桑折町	11,774	5,559	1,290	10.3
5	猪苗代町	14,023	6,312	1,230	15.0
県平均				1,035	12.7